

# W杯 ひとひと 情熱

第2部「仕掛け人たち」

三月下旬、JR神戸駅の地下街にユニークなポスターが出現した。サッカー少年、市バスの運転手、民族衣装の外国人…。約三百人が、ワールドカップ(W杯)会場の神戸ウイングスタジアムやそれぞれの仕事場で、とびつきりの笑顔を浮かべている。真ん中に躍る文字。「W

▼②▲

## アートディレクター 水谷 孝次

### 笑顔の力

「言葉や文化が違っても、笑顔を見れば、だれもがメリー(幸せ)な気持ちになる」  
東京在住。海外で数々の賞に輝くグラフィックデザイナーの第一人者だ。  
三年前のこと。テーマに合った表情を演出する仕事にうんざりしていた水谷は、ぶらっと訪れたロサンゼルスで、何気なく三人の少女にレンズを向けた。そこに笑顔があった。自然な

## 「みんな一緒に幸せになろう」

ELCOMETOWORLD CUP(W杯)へようこそ」  
制作に当たったアートディレクター水谷孝次(五三)。  
伝えたいことは、いたってシンプルだ。

「言葉や文化が違っても、笑顔を見れば、だれもがメリー(幸せ)な気持ちになる」  
東京在住。海外で数々の賞に輝くグラフィックデザイナーの第一人者だ。  
三年前のこと。テーマに合った表情を演出する仕事にうんざりしていた水谷は、ぶらっと訪れたロサンゼルスで、何気なく三人の少女にレンズを向けた。そこに笑顔があった。自然な



モデルになってくれた人たちと再会。「またメリーになりました」と水谷さん(左から2番目) 神戸市中央区東川崎町

以来、国内外で数々のポスター展を手掛ける。神戸ラに収めた。  
「言葉や文化が違っても、笑顔を見れば、だれもがメリー(幸せ)な気持ちになる」  
東京在住。海外で数々の賞に輝くグラフィックデザイナーの第一人者だ。  
三年前のこと。テーマに合った表情を演出する仕事にうんざりしていた水谷は、ぶらっと訪れたロサンゼルスで、何気なく三人の少女にレンズを向けた。そこに笑顔があった。自然な

があった。そして、震災から七年で、W杯を開くまで復興を遂げた神戸というまちに、正直驚いた」  
このまちと、人々。もっと世界にアピールしたい。  
そう思っていた矢先、W杯神戸開催推進委員会から、PRの企画が飛び込んだ。  
今年一月、撮影を始めた。毎週のように東京―神戸間を往復。灘の酒蔵、長田の再開現場。足を運んで、たくさん笑顔に出会った。  
五月までに五百人分を集め、ポスターを市内の主要な駅に張り出す。本にまとめる予定もある。

「笑顔でコミュニケーション。気軽に。難しく考える必要はない」  
そう言って、笑った。目じりが下がった。白い歯がのぞいた。(敬称略)